



# 広報ナガヤマのおきこぼ日誌



今号より当コラムを担当させていただく事になりました、広報担当の永山です。タイトルの「おきこぼ」は、故郷福島県会津地方の民芸品「おきあがりこぼし(起き上がり小法師)」から取りました。何度転んでも起き上がる「七転八倒」の意味が込められた縁起物の玩具です。以前「おきこぼ堂」という名前の古本屋をやっていた事もあり、思い入れの強い言葉を選ばせていただきました。「初めまして」の方も多々おられると思いますので、簡単に自己紹介させて下さい。

福島県出身。ジャズドラマーだった父の影響で幼い頃から音楽が溢れる日常を送り、気が付けば音楽を生業に。楽曲制作やバックバンド、イベントの企画運営や個人講師などの仕事をしてきましたが、「コロナ禍」をきっかけに長年暮らした東京を離れ大阪へ。仕事を見つめ直す機会として模索する中で、今回の御縁をいただきました。



長年愛用しているNIKON F45

当初は健康会のカメラマンとして動きながら、現場で頑張る皆さんの姿を写真も含めもっと発信していくために、「広報として関わらせていただきたい」と強く思うようになりました。

当コラムでは、「広報」として地域と関わらせていただく中で、感じた事などを写真も交えて書かせていただければと思いますので、宜しくお願い致します。

当コラムでは、「広報」として地域と関わらせていただく中で、感じた事などを写真も交えて書かせていただければと思いますので、宜しくお願い致します。

広報担当 永山健一

## 健康会からのお知らせ

地域の皆様どなたでも気軽に集まって趣味活動や体操、おしゃべりなどを楽しむサロンです。



## 健康会[つながりサロン]のご案内

**日時** 毎月第1・第3金曜日  
午前10:00~12:00

**場所** 富田団地集会所 大ホール(牧田郵便局前2階)  
エレベーターで2階へお上がりください。

**費用** 100円

**定員** 25名程度

詳しくはお電話にてお問合せください  
TEL.072-690-1700



## 富田健康を守る会からのお知らせ

## 富田健康を守る会 憩いのサロン

要予約

手芸教室	第1木曜	午前10:00~
囲碁の集い	第1土曜	午後1:30~
写経の集い	第2水曜	午後1:30~
映画鑑賞会	第3火曜	午後1:30~
おえかきクラブ	第3木曜	午前9:30~
リボンカフェ	第4火曜	午後1:30~
ライフ元気体操※)	第2・第4金曜	午後2:00~
月曜リサイクル市	★9月末までお休み 毎週月曜	午前10:00~

※) ライフ元気体操は「ふれあい文化センター(富田小向かい)」にてそれ以外は守る会会館にて実施いたします。

詳しくはお電話にてお問合せください/TEL.072-696-3309

## 富田地域包括支援センターからののお知らせ

いきいき暮らすヒントが学べる!

## 介護予防教室

毎月いろいろな専門職から健康に関するお話を聞いたり、気軽に質問もできます。高槻市オリジナルの元気体操を行なって体も動きます。

**日時** 毎月第3月曜日(祝日の場合は第2月曜日)  
午前10:00~11:30

**場所** 富田公民館 2階/集会室3  
(10月のみ大会室)

**持ち物** 筆記用具、飲み物、  
健康パスポート(お持ちの方)



詳しくはお電話にてお問合せください/TEL.072-694-2434

2023年(令和5年)		要予約
10月16日(月)	ノルディックウォーキング体操 (別途申込要:500円) 協賛:トップコーポレーションバナソニックエイジフリー高槻	
11月20日(月)	「健康をめぐる、最近のおはなし」 👤 看護師	
12月18日(月)	「保湿で肌をすこやかに」 👤 薬剤師	
2024年(令和6年)		
1月15日(月)	「食事のバランス感覚を整えよう」 👤 管理栄養士	
2月19日(月)	「一緒にやろう!認知症予防」 👤 認知症リハビリテーション専門士	
3月18日(月)	「精神科ソーシャルワーカーのお仕事」 👤 精神保健福祉士	

※各種イベントにご参加の方...当日はご自宅での検温と、マスクの着用にご協力ください。

ひとりひとりの思いに寄りそい、チームのちからで叶えます。

# かなえ

Vol. 13 再開号

まだまだ厳しい暑さが続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

2020年春号以降休刊しておりました広報誌『かなえ』の発行を再開することになりました。これを機に、医療法人庸愛会と一緒に地域で医療・介護・福祉を実践してきた社会福祉法人健康会と合同で誌面づくりに取り組み、地域住民の皆さま、日頃から連携させていただいている事業所の皆さまに、両法人を、より身近に感じていただけたらと考えております。

広報誌だけでなく、さまざまなかたちで発信し、皆さまからのお声をいただきながら、より「開かれた」法人をめざしていきたくて思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医療法人庸愛会・社会福祉法人健康会  
広報委員会

医療法人 庸愛会  
富田町病院



# これまでとこれから——

庸愛会事務長／健康会理事長 上井 茂

コロナ禍などもあり休止していた広報誌『かなえ』の再開を契機に、  
今後は庸愛会の姉妹法人である社会福祉法人健康会と合同で発行していきます。  
再開号となる今回は、庸愛会事務長であり健康会理事長の上井茂さんに  
二法人の「これまでとこれから」についてじっくりお話をお聴きしました。

## 3年ぶりの『かなえ』、庸愛会と健康会 合同での発行になりましたね。

はい。コロナ（新型コロナウイルス感染症）によって両法人ともさまざまな活動を中止したり縮小することを余儀なくされる中で、「再開するときにはぜひ合同でやろう」と考えていました。同時に、この『かなえ』を外部に向けてだけでなく、両法人で働く一人ひとりのスタッフに届けるというイメージを温めてきました。

## まず、コロナに翻弄された 約3年間でしたね。

もちろん、少なくないスタッフが感染し、病棟でのクラスターも複数回経験し、大変なことはたくさんありました。ハード面では決して整っているとは言い難い状況のなか、スタッフのがんばりで乗り越えてきました。とくに、各部署でスタッフの離脱が続出する状況下で、部署内外で助け合い、自部署以外の苦勞を垣間見られたのは、私たち庸愛会・健康会が「ひとつのチーム」として「切れ目のない医療・介護」を提供していくために、とても大きな経験だったと思います。

## 地域のなかでの役割をあらためて 考える機会にもなったのでは？

そうですね。私たちが運営している事業は病院、保育園、通所系・訪問系サービスなど、地域住民の暮らしに欠かせないものだと再認識しました。地域に密着し、暮らしのそばにある事業がいかに大きな役割を担っているか。富田町病院では、コロナ感染拡大の初期段階から「発熱者外来」を開き、コロナワクチンも含め、「かかりつけ」患者さんだけでなく、広く地域の方々を対象に実施してきました。

提携する高齢者入居施設でクラスターが起きたときには、保健所の助言を受けながら施設スタッフへの感染対策の支援もしました。そのなかで、やっぱりわたしたちの役割は、周囲の医療機関や介護事業所と地域住民の「つなぎめ（ハブ）」なんだと実感しました。

## スタッフの皆さんの意識も 変わってきたでしょうね。

地域の医療機関や入所施設との連携の広がりや、スタッフが自分たちの役割を自覚して仕事に向き合ってくれている成果だと思います。少し前、法人のパンフレットリニューアルに向けて「自部署を地域に紹介するとしたら？」「ここは自慢できると思う点は？」と各部署に投げかけてみたところ、とてもアツいコメントが返ってきました。共通するキーワードは「アットホーム」「患者さんや地域にとって身近な病院」「フットワークが軽い」など、「小さい」ことが決して「弱点」ではなく、人びとの暮らしにダイレクトに働きかけることができる「強み」だと思ってくれるスタッフがたくさんいるという手応えがありました。

## その「手応え」をどう発展させて いきますか？

健康会では「つながり活動」として、サロンや講座、バザーなど、地域の皆さんが文字通り「つながる」ことのできる場づくりを続け、最近「歩き方講座」なども始まりました。庸愛会では、この『かなえ』が休刊している間、各部署からスタッフが出て『かなえかわら版』を40号近く発行してくれました。「バックナンバーはありますか？」という地域の方からのお問い合わせ、「自部署の〇〇さんが書いたから読もう」



というスタッフの登場など、うれしい反応もあります。この蓄積は本当に大きなちからです。それを発展させていくには、「より外に出ていく」ことだと思います。富田町病院の前身である診療所時代から、私たちの先輩は地域の方々に触れて、そのニーズに応えようとしてきました。守る会のみならずと一緒に地域懇談会などもやってきました。私たちも、いまの時代にあった地域との接点づくりを積極的に進めたいです。同時にSNSなど新しいツールも含め、「発信することにも力を入れたいです。広報活動の重要性についてスタッフにも様々な場面で伝えていて、この『かなえ』も大事なチャンネルのひとつだと思います。

## 最後にひとこと。

スタッフには、自信をもって仕事をしてほしいと思います。わたしたちの法人に「外野」はいないと思っています。みんなが当事者です。法人理念の「一人ひとりの思いに寄りそい」の「一人ひとり」にはスタッフも含まれています。「わたしはどんな仕事がしたいのか」、「そのために何をするのか」を考え、自信をもって一歩前を出て行動してほしい。小さな手応えと一緒に感じながら、進んでいきたいですね。

聴き手：平田・永山  
まとめ：永久  
(いずれも広報委員)

